

改めて考えよう、 ウィズコロナを踏まえた 高齢社会の未来像

高齢者や基礎疾患のある方では重症化するリスクが高いことも報告されているコロナ禍において、特に高齢者はどういったことに気を付けて日常生活あるいは社会参加をすればよいかを示していきます。

本年度は
新型コロナウイルス
感染症対策のため、

無観客

オンライン配信

となります。

〈参加費：無料〉

視聴方法は
こちらの
QRコードかURLから
ご確認ください。



<http://www.hip-ltd.co.jp/kourei/>

令和3年 1月18日(月) 13:00-16:30

令和2年度

高齢社会フォーラム in 東京

13:00 開会挨拶 ▶ 13:10 基調講演 ▶ 14:00 高齢社会対策説明(内閣府) ▶ 14:20 分科会 ▶ 16:15 総括 ▶ 16:30 閉会

・基調講演・

3つのSで乗り越えよう！ ウィズコロナ時代のシニアの社会活動

古来、物事が成功する秘訣は、天・地・人がそろふことと言われています。地域づくりに例えると、「地」とは、多種多様な場・機会(通いの場やサロンなど)であり、「人」とは、様々な住民ボランティアやコーディネーター等支援者との関わりを意味します。そして「天」とは、地域包括ケアシステムの名のもと、一層、シニア世代の活躍が期待される機運が高まっています。しかし、新型コロナウイルス感染症により、突然の「雨天」となりました。コロナ禍において、シニア世代の日常は、交流による感染への対策 vs. 自粛によるフレイル(生活機能の衰え)への対策のバランスをどのように保つべきか問われています。コロナ禍を、正しく恐れて、かしく活動する秘訣について考えたいと思います。



藤原 佳典 氏

東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム 研究部長(チームリーダー)
兼)東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター センター長

北海道大学医学部卒業、京都大学病院老年科、東京都立大学都市研究所等を経て京都大学大学院医学研究科修了(医学博士)。2011年より現職。世代間交流・多世代共生の地域づくり・ソーシャルキャピタルの視点から、高齢者の認知症予防・フレイル予防について研究している。日本老年社会科学会理事、日本老年医学会評議員、日本世代間交流学会副会長、NPO法人りぷりんネットワーク理事、内閣府高齢社会対策の基本的な在り方等に関する検討会委員、厚生労働省一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会委員、多数の自治体の審議会座長を歴任。著書『子どもとシニアが元気になる絵本の読み聞かせガイド』(ライフ出版・監修)、『人は何歳まで働くべきか』(共編著・社会保険出版社)、『コーディネーター必携 シニアボランティアハンドブック』(共編著・大修館書店)

・第1分科会・

コロナが分断した人間関係を、人間の力が 紡ぎ直す。老いて「健康とは何か」を第一線の 専門家と語る作戦会議



コーディネーター

樋口 恵子 氏

東京家政大学
名誉教授

コロナ禍の中も超高齢社会はすすむ。新しい時代に対応しつつ、国難を乗り越えて、誰もが参画、参加できる、だれも置き去りにしない人生100年社会を構築する作戦会議です。「健康寿命」の後、10年もある平均寿命までをどう生きるか。コロナ禍の中での運動、食事、社会参加、コミュニケーションの必要性を語り合います。

パネリスト

飯島 勝矢 氏

東京大学高齢社会総合研究機構 機構長
(医師、老年医学・老年学専門)

東京慈恵会医科大学卒業、東京大学加齢医学講座講師、スタンフォード大学医学部研究員を経て、東京大学高齢社会総合研究機構機構長・未来ビジョン研究センター教授(現職)。一億総活躍国民会議有識者議員。専門は老年医学、ジェロントロジー。近著は「在宅時代の落とし穴 今日からできるフレイル対策」KADOKAWA

春日 キスヨ 氏

高齢社会をよくする女性の会・広島 代表
(元松山大学教授 社会学専門)

九州大学大学院博士課程中途退学。元松山大学人文学部教授。専攻は臨床社会学。現在、「高齢社会をよくする女性の会・広島」代表。著書『変わる家族と介護』(講談社現代新書)、『介護とジェンダー』(家族社。山川菊栄賞受賞)、『介護問題の社会学』(岩波書店)、『百まで生きる覚悟』(光文社新書)

中村 丁次 氏

神奈川県立保健福祉大学 学長(栄養学専門)

徳島大学医学部栄養学科卒業後、東京大学医学部より医学博士。聖アリオン医科大学病院栄養部部長を経て、神奈川県立保健福祉大学学長就任。現在に至る。日本栄養学会会長。著者に「臨床栄養学者中村丁次が紐解くジャパン・ニュートリション」第一出版など多数。

・第2分科会・

世界と一緒に考えよう！ コロナと高齢者の暮らし



コーディネーター

松田 智生 氏

株式会社三菱総合研究所
未来共創本部
主席研究員 / チーフプロデューサー

新型コロナウイルス感染症の拡大は日本の高齢者の暮らしに大きな影響を与えました。では海外の国ではどうでしょうか？本分科会では台湾・イタリア・日本からパネリストを迎え、各国でのコロナの状況や高齢者の暮らしについて報告を行います。併せてコロナ禍での家族や社会との関わり、目指すべき高齢社会像について討議を展開します。

パネリスト

パオラ カヴァリエレ 氏 (イタリア)

大阪大学大学院人間科学研究科特任講師

専門はジェンダーの宗教社会学。ヴェネツィア大学日本学修士取得後、東京大学大学院人文社会学系研究科に入学。2012年に英シェフィールド大学大学院東アジア研究科・東北大学大学院法学研究科国際共同博士取得。災害レジリエンスとジェンダー研究を行う。日本在住約15年。

蔡 慶玉 氏 (台湾)

作家・コラムニスト

台湾生まれ。国立政治大学日本文学部、アメリカ南カリフォルニア大学(USC)コミュニケーション・マネジメント修士。台湾電通・ピーコングループ系広告代理店営業担当。

著書：『日本食育物語、日式教養不平等』、
『奇怪の日本人 / 奇妙の日本語』
台湾テレビ・ラジオ出演多数。日本在住約20年。

牧 壮 氏 (日本)

牧アイティ研究所 代表

慶應義塾大学工学部卒業後、旭化成勤務。定年退職後、牧アイティ研究所を設立。マレーシア・ペナン島へ13年間移住して、インターネットを活用したグローバルなワークスタイルを実践。帰国後、IoT: Internet of Seniorsの構想を啓蒙し、コロナ禍においてインターネットによるシニアの社会参加を推進中。
著書：『シニアよ、インターネットでつながろう！』

※すべて日本語で行います。

・第3分科会・

コロナ禍も紡いできた地域のつながりを 途絶えさせないためには？



コーディネーター

澤岡 詩野 氏

(公財)ダイヤ高齢社会研究財団
研究部主任研究員
工学博士 / 専門社会調査士

新たな生活様式が求められるなかで、「場に出てきて集うこと」を前提にしてきた地域社会では、戸惑い悩む人が少なくありません。本分科会では、できなくなったことではなく「できること」に目をむけて動く三者と共に、これまで地域で紡いできたつながりを途絶えさせないだけではなく、さらに豊かにするための方策を考えます。

パネリスト

竹上 恭子 氏

三鷹市井の頭一丁目町会 会長

夫の転勤に伴い、海外生活を3回経験、15年前に三鷹に落ち着く。世代を超えた交流の場「みんなのブックカフェ」を町会事業として12年前に提案し、スタート。その中で生まれたつながりから、若いパパママチームが町会活動に積極的に参加。町会を「自分たちにとって住みやすい町を作るための組織」にしたいと活動中。

吉田 心弥 氏

社会福祉法人日高市社会福祉協議会
CSW(コミュニティソーシャルワーカー)・
ボランティアコーディネーター

文京学院大学卒業、社会福祉士。福祉の基盤である地域福祉の可能性に魅了され、社会福祉協議会に勤務。CSWとボランティアコーディネーターを兼務。直接つながることが困難なコロナ禍においても、地域のつながりを絶やさないため、オンラインとオフラインの併用によるアプローチを積極的に進めている。

大下 裕子 氏

横浜市南区陸地域ケアプラザ
生活支援コーディネーター

平成30年4月社会福祉法人たすけあいゆい入社。横浜市陸地域ケアプラザに配属。同年7月第2層生活支援コーディネーターに着任。前職は教育系NPO職員。放課後児童育成事業・社会教育事業に従事する。初めての福祉用語・制度に戸惑いながら、地域住民が関わり合う「場づくり」を大切に活動中。